

令和8年度 第2回協働のまちづくり推進委員会 会議録

日 時	令和8年7月3日（金） 14：00～16：45
場 所	すこやかセンター2階 会議室1
出席委員	清水会長、小川副会長、岡野委員、渡邊委員、吉木委員 四本委員、武重委員、瀬良委員、牧野委員、二枝委員
欠席委員	中村委員、平川委員
事 務 局	市民活動推進課 太田課長、竹村、柴山 まちづくりコーディネーター 浅貝
傍 聴 者	0名

[会議次第]

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 題

- (1) 第2次富里市協働のまちづくり推進計画（改訂版）の評価及び第3次推進計画の方向性について

4 講 義

講師：千葉大学大学院社会科学研究院 教授 関谷 昇 氏

5 そ の 他

6 閉 会

[会議概要]

	(開会) ー「協働のまちづくり推進委員会の運営に関する要綱」第3条第1項により、会長が議事の進行を務めるー
会長	次第3 議題 (1) 第2次富里市協働のまちづくり推進計画（改訂版）の評価及び第3次推進計画の方向性について 第1回推進委員会の際、事務局から委員の皆様へ事前に意見を整理してきてくださいといった依頼があったかと思います。発展させたい事業や縮小してもいいのではないかという事業、新しいアイデアなどあると思いますので、一つずつ御意見を伺っていきたいと思います。 それでは、第1節「活動の醸成支援」の1「活動支援及び中間支援機能の強化」についてご意見をいただきたいと思います。 意見等がある場合は、挙手の上、発言をお願いします。いかがでしょうか。
A委員	1 ページ、サポートセンターの相談・問合せ件数ですが、休館日があるとしても200日数日は稼働している中で、129件は少ないと感じます。サポートセンターは、どなたを対象としているのか。なぜこんなに少ないというのが率直な感想です。対象は外国人ですか。
会長	問合せ件数をカウントする対象は市民です。件数については、多い少ないという感覚を持っていませんでしたが、ただ今のご意見について関連するご意見はございますか。
B委員	コロナの影響はありますか。
事務局	令和4年度は99件、令和5年度は128件、令和6年度は167件と年度によって相談件数の変動はあります。コロナの影響があると言われるとはっきりと断定はできません。
B委員	市民活動推進課が本庁舎からサポートセンターの事務室に移動したのはいつですか。
事務局	正確にはお答えできず申し訳ありませんが、令和になってコロナ禍の時期だったかと思います。
B委員	相談件数が減少した原因に市民活動推進課がサポートセンターに移動

	してきたことはありますか。
A委員	自分が行く機会もないので、どのような内容がカウントされているのかがわからない。人数が少ないことが悪いことではないが、もっと盛り上がればいいなと思います。
事務局	市民活動団体の相談やボランティア活動をしてみたい方が相談でお越しになる場合もあります。
会長	相談件数としてカウントしているのは、窓口に来所した人だけですか。
事務局	来所、電話、メールです。
B委員	世間話はカウントしていないのでしょうか。
C委員	世間話の中に相談内容も含まれることもあります。そこをどのようにカウントしていますか。
事務局	世間話だけではカウントはしていませんが、対応一覧に区分けがあり、相談が含まれていればカウントをしています。
会長	相談件数が気になるというご意見だと思いますが、今後検証していきたいと思います。 また、B委員からサポートセンターが利用しやすいのかという点で、サポートセンターができた当初や市民活動推進課が移転する前と比較する必要があるのかなと思います。
D委員	サポートセンターの設立当初から関わってきていますが、相談の件数は、相談シートがあり、「まちづくりや地域づくりなど何かやりたい」、「人をもっと増やしたい」、「活動資金の相談」など相談シートに聞き取り、その件数をカウントしています。世間話やちょっと話を聞いた程度ではカウントしていないと思います。 相談件数が多いか少ないかについては、相談の中身なども情報提供していただくと、検討に向けて理解が深まると思います。また、サポートセンター以外場で相談を受けることもあるでしょうし、どこか部署や団体につなぐなど相談への対応の仕方も大切だと思います。
B委員	相談しやすいかどうかは、雰囲気ですね。人や場所が関係すると思います。市民活動推進課がサポートセンターに事務所が移る前と現在と

	で数字に変化がないのかが気になります。 また、カウントする相談内容のハードルを高くすると今のような件数かもしれないが、ハードルを下げれば、世間話から相談になることもありえます。敷居が高いと無駄話をしてはいけないという雰囲気になってよくないと思います。以前は、市民活動推進課はなかったので、無駄話、世間話などが気軽に言えましたが、今は忖度しています。そのあたりをどうしていくのかを検討していかなければいけないと思います。ちゃんとした相談でなければ相談ではないとしてしまうと足が遠のきます。
会長	用事がなくても立ち寄れる空間づくりも検討事項の一つではないかと思います。 他にいかがでしょうか。
E 委員	ニュースレターの件ですが、中学、高校など学校関係に向けての発信はされているでしょうか。配布されていないのであれば、そういうところにも周知していくことも重要なのではないのでしょうか。
会長	あわせて、点検の項目が、発行数だけになっています。E 委員のご意見は、発信先の広がりも含め、検討していく必要があるのではないかと思います。他はいかがでしょう。 ないようでしたら、私の意見ですが、ご承知の通り、サポートセンター事業は7つの支援力が柱にあります。その中の「相談の対応力」、「情報の編集・発信力」、「人材育成力」に関わる情報の発信、ニュースレターやSNSの発信は、力が入っていると思います。人材育成力も講座を積極的に開催され、今後も継続していただきたいと思います。 他方で課題は、「コーディネート・ネットワーキング力」、「資源の掘り起こし」の部分で、改定に当たってはその点に力を入れステップアップしていく必要があると思います。アウトリーチするなどして資源を掘り起こせば、コーディネーターが市民、団体や企業、使える場所などをマッチングしていけるようになります。さらに「異分野、異世代の交流」の促進につながっていくと思うので、次期計画の策定に当たっては、この点の比重を高めてもよいと思います。 推進内容については、市の各部署が実施すること、推進委員会が行うことなど、サポセンの機能強化以外のことが含まれているので、これらを別の事業として切り出すなどして、わかりやすくすると思います。 続いて、補助金の部分についていかがでしょうか。
D 委員	市民活動支援補助金の審査をしましたが、審査する側として、書いて

	ほしい内容が書かれていないのが現状です。コーディネーターの中には、数年経験された方もいらっしゃるので、書き方のセミナーやプレゼンテーションの練習など、もう少し寄り添った対応をしていただければと思います。また、全国には助成金の案内がたくさんありますので、市の補助金をスタートに、そういう助成金にもチャレンジしていけるよう対応していくことも検討していただきたいと思います。
会長	現在は、市の補助金のことだけですが、市の補助金から民間の助成金へステップアップするように広い視点で位置付けていくという意見だと思っています。市民活動支援補助金に関して、他にいかがでしょうか。
B 委員	1 次募集で、45 万円の予算に対し、予算は残っている状況だと聞いています。残してしまうと、補助金自体が縮小されてしまうし、消滅してしまうと困りますが、応募があったものをすべて選定してしまうのはいかがなものかと思います。この補助金は、これまでたくさんの団体に活用されてきていますが、団体によっては、チラシの作成費用など、会長が負担しているところもあると聞いています。また、これまでの申請団体をみると、補助金申請の費目について共通するものもあるので、そのような費目についてはチェックすればすむなど、記入の負担を下げる工夫も必要と考えます。補助金申請のハードルが高すぎるので、様式を簡素化することも検討すれば、活用していただける団体も増えていくのではないかと思います。
会長	申請書が難しすぎるとのことで、もっと書式を簡素化することを検討したほうがよいのではないかとのご意見だと思います。他にいかがでしょうか。
C 委員	コーディネーターへ資金面の相談もあると思いますが、その際に、積極的に補助金のことを伝えてあげるなど寄り添う姿勢をとっていただけるとよいと思います。
会長	市民活動支援補助金への申請の前段階でコーディネーターに寄り添っていただきたいということだと思います。 次に「活動資金の確保」については、いかがでしょうか。
A 委員	ちい寄附については、そのまま市民活動支援補助金の財源になっていますか。
事務局	寄附金については、各店舗に回収に伺い、ふるさと応援寄付金として

	市の歳入に組み込まれた後、市民活動支援補助金の財源として振り分けられます。
会長	ちい寄附が増えても直接市民活動支援補助金が増えるということではないということですね。インセンティブが働かないことにもなります。市民の寄附が直接入ってくる仕組みについて、千葉市のふるさと納税を例にクラウドファンディングの導入のアイデアもあったと思いますので、検討していただけたらと思います。
B 委員	検討した経緯はあったと思いますが、検討した結果、どういう形にするかの結論まで至っていないということによろしいですか。
会長	こちらは是非実現させていただきたい事業だと思います。 続いて「担い手の発掘・育成の充実」についてはいかがでしょうか。
B 委員	ボランティア手帳ですが、今の時代9割がスマホを所有しています。努力してボランティア手帳の普及を図っていますが、年間1名程度なので、思い切って辞めるという選択肢もあると思います。計画にあるから何か対応しなくてはならないし、結果がなければ何もやっていないとの評価になってしまいます。市の職員が、時間を割いて実施することが、もったいないと思います。それであれば、他のことに注力してもらったほうがいい。すぐは無理かもしれませんが、SNSの時代なのでスマホ版をつくるなど別の形にシフトしていくのもよいのかと思っています。
会長	ボランティア手帳の見直しという意見が出ましたけれども、他にございますか。
F 委員	午前中別の会議で、ボランティア手帳を持っているかと確認したら、ほとんど知られておらず、活用もしていないとのことでした。先日、在庫もたくさんあるとのことでしたが、辞めてしまうことによってその在庫の活用がもったいないので、何とか活用できる方法がないかと思っています。ボランティア手帳の目的が見えていないというものあるのではないかと思いますし、もし活用するのであれば、少し検討が必要なのかと思っています。
A 委員	小学生に配ったら喜んで使うと思いますが、配布しているのですか。それとも取りに来るのですか。
事務局	ボランティア手帳の活用が少ないということから、今年度市内の校長

	先生が集まる会議で、活用についてお話をさせていただく時間をいただきました。その結果、根木名小学校から学校内での奉仕作業で使いたいとの申し出があり、全児童数分のボランティア手帳を配布いたしました。
会長	やり方を変えるなど有効活用する方法もあるのではないかと御意見だと思います。他にいかがですか。
A委員	若者プロジェクトも参加者が少ない。自分が若いころを考えると、参加したいということはなかったと思いますが。
会長	当初、若者プロジェクトは、別途、予算を獲得するかたちで始まりましたが、現在の予算はどういう状況ですか。
事務局	以前は若者プロジェクトに対する補助金はありませんでしたが、今年度から廃止となっております。若者プロジェクトに係る経費は、市で消耗品費等の予算があります。
会長	高校生や大学生などがアイデアを出し合って活動しているが、参加者が伸び悩んでいるとのこと。
D委員	若者プロジェクトは、継続している人はいますか。高校や大学で富里から離れることがあるかもしれませんが、テーマは毎年変えるけれどもチームとして継続していける形なのか、1年だけの活動なのか、そのあたりはどうなっていますか。
事務局	今年6期を迎えますが、2～5期を継続して活動された方、2～3期を継続して活動された方が、それぞれ1名ずついらっしゃいます。また、今年度については、4期・5期で活動されていた方が再度応募してくれている状況です。
A委員	各期終了後に修了証のようなものを発行していないのですか。
D委員	修了証のようなものやボランティアに参加した証みたいなのを発行して、内申書などにプラスされるようなものを市でも発行したらいいと思います。
会長	若者プロジェクトはメンバーが減少しているのは気になりますが、やり方を工夫して継続していくことを期待するものだと思います。

B 委員	誰か指導している人はいますか。
事務局	指導というのはなく、集まったメンバーで話し合っていくものです。
B 委員	最初は、若者だけで会議をされていたと思いますが、そのうち運営が厳しくなって応援隊みたいなものがいたと思います。
事務局	昨年度までサポートメンバーを募集していたようですが、今年度は若者だけに變更し、サポートメンバーの募集はしていません。
B 委員	大人がいると自主性がなくなってしまう、減ってきた要因だったのかと思います。内容はともかく自分たちがどのようにやっていくのかを育んでいっていただくように、今回変えていただいたということはよいと思います。
会長	続いて、「地域づくり協議会等の地域ネットワークの活性化」についてはいかがでしょうか。
A 委員	この取り組みについては、あまり何をやっているかはわからない。
会長	今日のところは、わかりづらいというところでしょうか。 続いて、第 2 節、「情報提供・共有」の中の「協働のまちづくりに関する情報発信の充実」については、いかがでしょうか。
B 委員	24 ページの「架け橋～市民活動出前講座」についてです。市民活動団体が要望のあった場所に行って講座するという事業ですが、進捗状況をみると、一つの団体が、主に高齢者施設で実施されている。これは、そもそも富里市の中にニーズがないのか、知られていないのかのどちらかだと思います。登録団体がどのくらいあるのか把握していませんが、登録団体が講座ができるように面倒を見ていただけないと、登録者がどのくらいあるかで終わってしまい、登録しているのに声がかからないと寂しい気持ちになります。ニーズがないのであれば、違う方法を考えなければいけないと思います。
会長	他にございますか。 ないようでしたら、私から一つあります。出前講座も含め、講座はとてもよい取り組みだと思います。出前講座は、現在、情報発信の項目にありますが、今は情報発信をするというフェーズから、ネットワークづくりやマッチングに位置づけを変えて充実させていく必要があると思います。

	ます。 他にいかがですか。
B 委員	28 ページ、広報とみさとの5月・6月号に市民活動感謝状の受賞者の記事が掲載されていました。市内にどのような活動をしているのかを広く知っていただくために、何年か前から取り入れていただくようお願いしました。広報を見て、自分も参加してみたいという人が現れるかもしれないので、その部分を考えて毎年、私は推薦書を提出していますが、こちらは続けていただきたいと思います。初めは、喜んでいなかった人たちも、広報に載ったことで、喜んでいただいていますので、充実させていただきたいと思います。
会長	他にはいかがでしょうか。
D 委員	感謝状は、個人、団体、事業者もいいと思いますが、事業者はどのような内容ですか。
B 委員	ちい寄附の協力店です。
D 委員	事業者も一緒に感謝状というのはいいいと思います。継続していただきたい。
B 委員	それによってちい寄附に協力いただける事業者も増えると思います。
F 委員	感謝状ですが、団体については、ある程度書類を見れば、何年以上活動して、どのような活動をしているのか、社協も含め、把握していると思います。他方で、個人については、なかなか把握しにくいと思うので、そのあたりに力を入れていただきたいと思います。企業や団体と違ってなかなか目立ちませんし、関わった人でないとわからない部分ではありますが、検討していただければと思います。
会長	感謝状の取り組みの充実は、地域資源の発掘にもつながると思います。
C 委員	先ほど広報の話が出ましたが、新聞折り込みや公共施設等にしか置いていない。私は新聞をとっていないので、見る機会がない。
事務局	広報とみさとについては、新聞折り込み、公共施設のほかコンビニやスーパーにも配架させていただいております。また、希望があれば、郵送での対応も行っております。

D委員	市のホームページにも出ています。
B委員	郵送だと財政を圧迫させるし、ホームページやLINEで、確認する方法もあります。
会長	26ページの「協働専用情報発信ツールの運用」に関係しますが、サポートセンターのコーディネーターが、フェイスブック、インスタグラムのほか、紙媒体も含め積極的にやってくださっています。ただ、スマホやインターネットで見えるものは、新しいものがどんどん追加され、情報が流れて行ってしまいます。しかし、今、富里市には、協働のまちづくりの全体像がわかるホームページありません。そこで、協働のまちづくりの取り組みに関わる情報を集約したページ、デジタルプラットフォームを作っていただきたいと思います。そこには、市民活動団体、事業者などの活動事例、コラボ事業、活動団体の募集などの登録の入り口を作り、登録されている団体や事業者が一覧になっていて、一緒にやりたい団体を探せる機能があって、コーディネーターが活動団体や事業者などをコーディネートするときに活用していくものです。サイトだけあっても意味がないですが、富里市の場合は、コーディネーターがいるので、そういうものをまとまって、見える化するプラットフォームを作ること、協働発信や魅力発信につながるのではないかと思います。今回の改定の一つの柱としてできたらと思います。 次に「情報交流の場づくり」になりますが、いかがでしょうか。
D委員	情報交流や交流会は、それだけでも役に立ちますし、どんどんやった方がいいと思います。さらに、そういう場をもう少しステップアップさせた、市民活動団体や事業者が連携する場や、まちの課題についてできることを探す円卓会議が必要だと思います。ただ交流するということにはみなさん、飽きてきています。目先を少し変えて、円卓会議のような連携が生まれやすい進め方もあると思いますので、もう少し思考を変えて、継続していただければと思います。
A委員	みなさん忙しいので、その場に集まるということが難しくなっています。オンラインやリモートを使った交流会も検討してもいいのかなと思います。
会長	推進計画の中に、リモートはコロナ禍での対応という記載がありますが、リモート会議を新しい形で使っていけたらいいと思います。 また、この部分は、大きな括りで「情報交換の場づくり」となってい

	ますが、D委員のお話にあったように、情報交換というより連携、ネットワークづくりなど、最近では「共創」、少し前だと「コラボ」という新しいつながりができて、それが新しい活動を生み出していくという場として、積極的に位置づけたらよいと思います。 さらに、ここに関連するのが「とみさと市民活動フェスタの開催」で、ふだん関わらない人と出会う場です。これらの事業と「異文化、異世代の交流」と「円卓会議の検討・実施」の事業は、一つのまとまりとして見えるようにして積極的にしていければと思います。 他に御意見はございますか。 ー特になし
会長	それでは、「調査機能の充実」についてですが、こちらは積極的にやっていただきたいと思います。 他にご意見はございますか。 ー特になし
会長	最後に、第3節「市の推進体制」ですが、御意見ございますか。 ないようでしたら、私から、このタイミングでセクションの組替を提案してよいかわかりませんが、現在、「推進体制」は、行政の取り組みが書かれている部分となっているかと思います。しかし、協働のまちづくりを推進する体制は、庁内の推進体制と、市民参加の取り組みとしての推進委員会があります。現在の推進計画では、推進委員会は「サポートセンター機能の強化」の推進内容での記載にとどまっていますが、推進計画の項目としては見えていないので、「推進体制」の事業に入れてもよいと思います。 また、「サポートセンターの機能の強化」も、「推進体制」の中に入るのかなと思います。協働塾などいろいろな取組を進めるのがサポートセンターなので、「推進体制」に組み込む形もありかとも思います。このあたりの整理の仕方を本日は関谷先生もいらっしゃっているので、アドバイス等をいただければとも思っています。他にございますか。
B委員	コーディネーターもメンバーチェンジしていますが、以前は、サポートセンターで発行したチラシにコーディネーターが全員写ったものがあったと記憶しています。今は、コーディネーターさんの人柄などよくわからないので、できれば個人情報に抵触しない程度に4名の方のプロフィールなど作って、提供していただけると相談しやすくなるのではないかと思います。

会長	他にございますか。
G 委員	みんなでボランティア体験は、すごくいい取り組みだと思っています。小学校などに配布していて、エントリーがなくても、各団体の周知にもつながりますし、それを見て参加してくれる人もいます。来てくれてもそのままフェードアウトする人もいますが、敷居が低くてよい事業だと思います。
会長	「中間支援組織などとの連携」に位置づけられている社協のボランティアセンターとサポートセンターが協働で実施している取り組みですね。重要な取り組みだと思います。 H 委員はいかがですか。
H 委員	富里第一小学校区まちづくり協議会で、年 3 回ほどごみ拾いなど、子どもと大人と一緒に活動しています。広報紙を作成し、各世帯に配布して周知を図っています。
会長	まちづくり協議会で工夫しているお話をしていただきましたが、続いて I 委員はいかがですか。
I 委員	ボランティア手帳の修了している人が少ないという点で、今、市と協定をして公園の草刈りをしています。作業をしていると小学生が遊びに来て、手伝ってくれることもあります。きれいにしておく遊びに来てくれますので、その時に少し宣伝できるかなと思いました。 また、日吉台には、日本語学校が 2 校あります。日吉台のメイン通りのごみ拾いを日本語学校の研修生がボランティアとして何人か参加していただいたりしています。参考までに話をさせていただきました。
会長	地域にはまだまだ課題はありますが、資源や強みもあります。いろいろなものをつなげていける仕組みができたらと思います。 それでは、議題が終わりましたので、進行を事務局にお返しします。
事務局	続きまして、次第 4、講義ということで、第 3 次富里市協働のまちづくり推進計画策定に向け、現在の協働のまちづくりの傾向と課題について、関谷先生からのご講義いただきたいと思います。 ー協働のまちづくりに向けてー 講師：千葉大学大学院社会科学研究院 教授 関谷 昇 氏

事務局	次に次第５、その他に移ります。 －市民活動サポートセンターの実施事業についての報告－ ・まちづくり交流会 ・みんなでボランティア体験 ・市民活動サポートセンター利用状況（６月分）
B委員	みんなでボランティア体験について、定員に達した場合、どのような対応をしているのか。
事務局	定員に達しそうな段階で、団体に連絡をし、場合によっては、キャンセル待ちの対応になるかと思います。申込み状況については、応募団体には連絡いたします。 －その他連絡事項－ ・第２次富里市協働のまちづくり推進計画（改訂版）に対する実行計画事業の評価と課題についての提出依頼 締切：７月１３日（月） ・第３回協働のまちづくり推進委員会について 日時：７月２９日（水）１４時から本庁舎３階第３会議室 資料は、事前に郵送予定 ・第４回推進委員会の日程 日程：８月２１日（金） 市民活動支援補助金の審査会も兼ねる予定（開催時間は未定） その他、ご確認等はございますか。 ないようですので、以上をもちまして、令和８年度第１回協働のまちづくり推進委員会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。 （閉会）